

くろす



黒須としたか

活動レポート
田園海浜文化都市宣言
CROSS通信

事務所:大網白里市大網33-8サンモア内 TEL0475-73-4126(ナミヨイプロ)

自宅:大網白里市仏島28-8 TEL0475-73-8615 FAX0475-70-2666

http://www.geocities.jp/ooamicross/Eメール:ooamicross@ybb.ne.jp

大網病院はなぜジェネリック医薬品を処方しないのか

■大網病院の薬を調べたら

実家の84歳になる父が大網病院で処方されている薬を見たらジェネリック医薬品(後発品)が少ないので調べてみた。先発品しかない薬もあったが、多くの薬は後発品が存在していて、近くの薬局にも常備してある。

■2倍以上値段が高い薬も

今まで処方されていた湿布薬のモーラステープは45.9円⇒ジェネリックのパテルテープだと19.8円。アルタットカプセルという錠剤は44.6円⇒ジェネリックだと25.4円。デパス錠は9円⇒ジェネリックだと5.8円。高い薬を処方されれば、当然、患者の負担は増える。今まで父はかなり高い薬代を払っていたようだ。

■市はどう考えているか

市民がジェネリック医薬品を使うと市にはどのような影響があるのだろうか。はじめに国民健康保険会計について担当課の市民課に聞いてみた。

市民課長によると「後発医薬品、いわゆるジェネリック医薬品は、先発医薬品と同等であるものとして製造販売が承認され、一般的に開発費用は安く抑えられることから、先発薬品に比べて

薬価が安くなっている。このため、ジェネリック医薬品を多く利用してもらえば、患者の窓口負担の軽減、医療保険財政の改善に資するものと考えられる。国保担当課としては、国保財政の健全化に向けてジェネリック医薬品の使用促進に努めていきたい。」とのことだった。

■大網病院の経営上は？

大網病院にはどんな影響があるのだろうか。3割引き、4割引き、半額以下の安いジェネリック医薬品もあるにもかかわらず、なぜ市民病院である大網病院がわざわざ市民負担が重くなる値段の高い薬を処方するのだろうか。病院経営上の問題でもあるのだろうか。

国保大網病院事務長によると「ジェネリックの採用に伴い、患者の窓口負担が少なくなり、病院の収入も減ることとなるが、薬剤購入費自体も下がるので、利益的には影響が少ないものと考えている。また、国民医療費増大への対応という大局的な見地から、ジェネリック医薬品の採用が推奨されているので、大網病院においても、経費の削減にもつながることなので、院内薬事委員会でも有用なジェネリックの採用について積極的に検討、研究していきたい。」とのことだった。

■ジェネリックに変えよう！

市民課も大網病院も共にジェネリック医薬品を推奨しているとの話だった。しかし実際には、冒頭書いたように今も多くの先発医薬品が処方されている。

製薬会社が、あの手この手と使って高い薬を使わせようとしているので、無頓着な医者が高い薬を処方してしまうのだろうか。

市民病院においては、ジェネリックの処方を基本とし、同時に過剰な薬の処方もやめれば、市民にとっても、市の財政にとっても共に利益があるのではないだろうか。

本音のコラム

談合に甘い首長たち 4

千葉県知事の森田健作(本名鈴木栄治)は、公正取引委員会から談合で摘発された企業の処分軽減を行い、本来1年間の指名停止処方を半分に軽減した。これだけでも噴飯ものだが、2月の大雪のときに早速指名停止中の業者に除雪作業を発注した。

除雪作業のような緊急の随意契約は、業者の言い値で行われると言われている。これでは半分にされた指名停止すらも効力がない。

業者と自治体が癒着しているかぎり税金がいくらあっても足りない。